



# 2015年度 環境活動レポート

(2015年4月～2016年3月)



熊本城

**九州高圧コンクリート工業株式会社**

～ありがとうと言われる会社になりたい～

2016年7月1日発行

# 目次

1. 会社概要	1
2. 環境方針	2
3. 環境活動推進体制	3
4. 中長期目標	4
(1) 中長期目標	
(2) 二酸化炭素排出量の推移	
5. 環境活動実績	
(1) 2015年度環境活動取組み状況	5
(2) 2015年度環境活動目標と実績	7
(3) 主な個別項目の取組み状況	8
① 工場等の電力使用量削減の取組み	
② A重油使用量削減の取組み	
③ 工場等の水使用量削減の取組み	
④ ガソリン消費率向上の取組み	9
⑤ 用紙使用量削減の取組み	
⑥ 事務用品グリーン調達率向上の取組み	
⑦ 工場産業廃棄物リサイクル率向上の取組み	10
⑧ 建設系産業廃棄物リサイクル率向上の取組み	
⑨ 受託した産業廃棄物リサイクル率向上の取組み	
(4) 地域に密着した環境活動の推進	11
(5) 豊前工場の小型貫流ボイラー導入について	12
(6) 事業別環境負荷実績	13
(7) 環境活動コスト	15
6. 環境関連法規の遵守状況	16
7. 産業廃棄物処理業に関する情報	17
8. 次年度の環境目標	18
9. 代表者による全体評価と見直し	19

## 1. 会社概要

### 基本情報

- 事業者名 九州高圧コンクリート工業株式会社
- 代表者 中西 章夫
- 設立年月日 1957年11月5日
- 資本金 2億4千万円

### 事業の内容

- コンクリートポール及びコンクリートパイプ、その他コンクリート製品の生産並びに販売
- 土木建築工事の設計・施工並びに監督
- 産業廃棄物のリサイクル及び処理業
- 既設コンクリート構造物調査・診断に関する一切の事業
- バッテリー再生に関する事業

### 許可の内容

- 建設業 土木工事業、とび・土木工事業、ほ装工事業、塗装工事業
- 廃棄物処理業 中間処理業／ガラスくず等、がれき類（自動車等除く）

### 事業の規模

- 売上高 57.9 億円
- 生産量 67,823 トン
- 工事件数 509 件
- 廃棄物処理量 13,809 トン

### 対象事業所

- 本社 福岡県福岡市南区向野一丁目13-14
- 豊前工場 福岡県豊前市大字八屋2544-61
- 熊本工場 熊本県菊池市旭志川辺1349-4
- 鹿児島営業所 鹿児島県鹿児島市南林寺町26-4

### 沿革

1957年11月	設立
1958年 9月	九州電力(株)にポール納入開始
1958年10月	豊前工場竣工
1964年 4月	PCパイプ製造開始
1970年 4月	JR、NTTにポール納入開始
1971年 7月	鹿児島営業所を設置
1977年 4月	電線類地中化製品製造開始（豊前）
1981年 9月	熊本工場竣工
1998年 2月	廃品コンクリートポールのリサイクル事業開始
2001年 1月	ISO9001 品質システム認証取得
2007年 5月	新 JIS マーク取得（豊前）
2007年 7月	新 JIS マーク取得（熊本）
2007年11月	創立50周年
2010年 9月	エネルギー使用の合理化に関する法律に基づき特定事業者指定
2011年11月	エコアクション21認証取得
2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始（熊本）
2014年 7月	ポール生産を熊本工場に集約

## 2. 環境方針

### 環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

### 基本指針

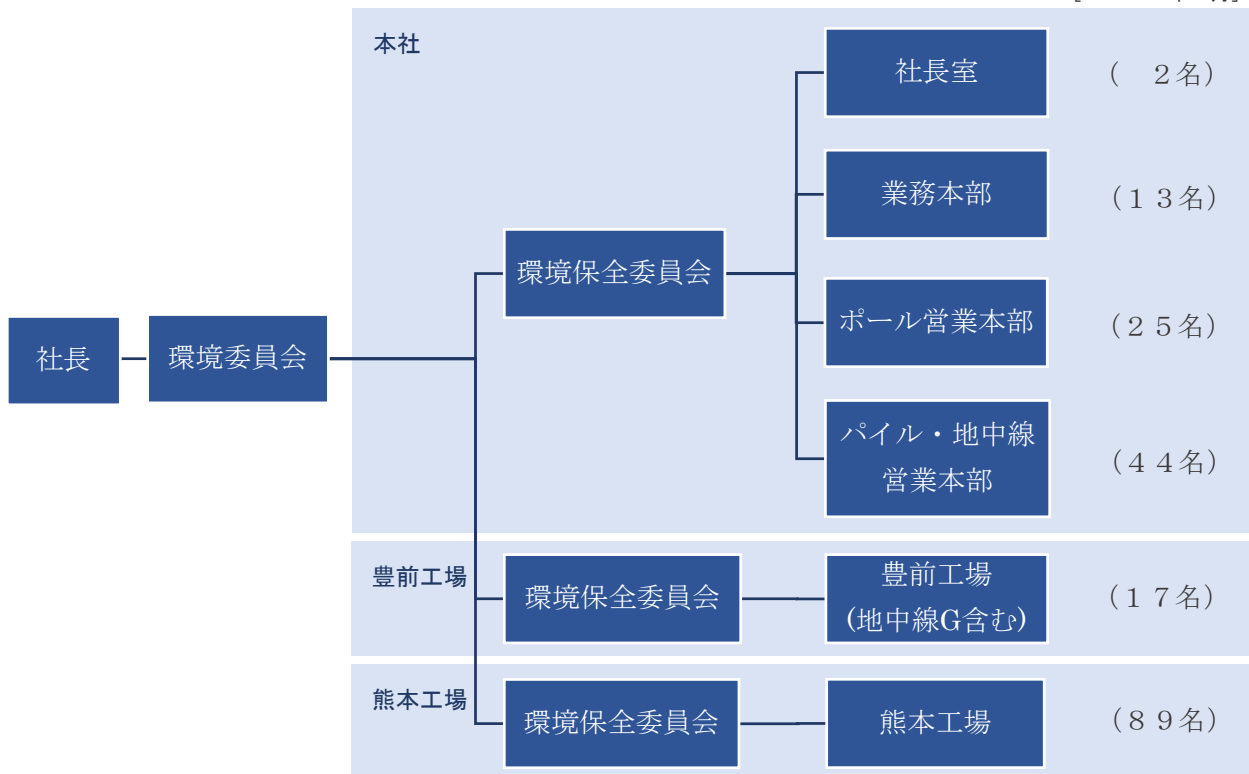
1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組めます。
  - (1) 温室効果ガス排出量の削減
  - (2) 廃棄物量の削減・リサイクルの推進
  - (3) 水使用量の削減
  - (4) 化学物質使用量の削減
  - (5) グリーン調達の推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境目標及び環境活動計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
5. 環境活動レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

2014年6月20日改定  
九州高圧コンクリート工業株式会社  
代表取締役社長 中西 章夫



### 3. 環境活動推進体制

[2016年6月]



エコアクション21は全ての組織・事業が対象です

#### 委員会の構成

	環境委員会	本社	豊前工場	熊本工場
委員長	業務本部長 [環境管理責任者]	業務本部長	工場長	工場長
委員	環境保全委員長 エネルギー管理員 エネルギー管理企画推進者	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員
事務局	業務本部総務G	総務G	地中線G	生産G

#### 主な役割

責任者	主な役割
環境管理責任者	全社における環境活動の構築・運用責任者
環境委員会	環境活動マニュアル策定、環境方針・計画及び目標の策定、 公害防止に関する対応事項策定、省エネ法対応 等
環境保全委員長	事業所における環境活動の構築・運用責任者
環境保全委員会	環境計画及び目標の啓蒙・実施、環境活動の確認・評価、 公害防止対応、緊急事態への対応 等
従業員	環境方針、計画に従い、全ての環境活動に取り組む
業務本部総務G	環境への負荷、取組みの取りまとめ、環境関連法規の確認・情報収集、 環境活動レポートの作成 等

## 4. 中長期目標

### (1) 中長期目標【2009年度を基準年とし、継続して3ヶ年の中長期目標を策定】

- ・二酸化炭素排出量、水使用量⇒前年目標値1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率⇒現状維持
- ・事務用品グリーン調達率⇒九電グループ目標値

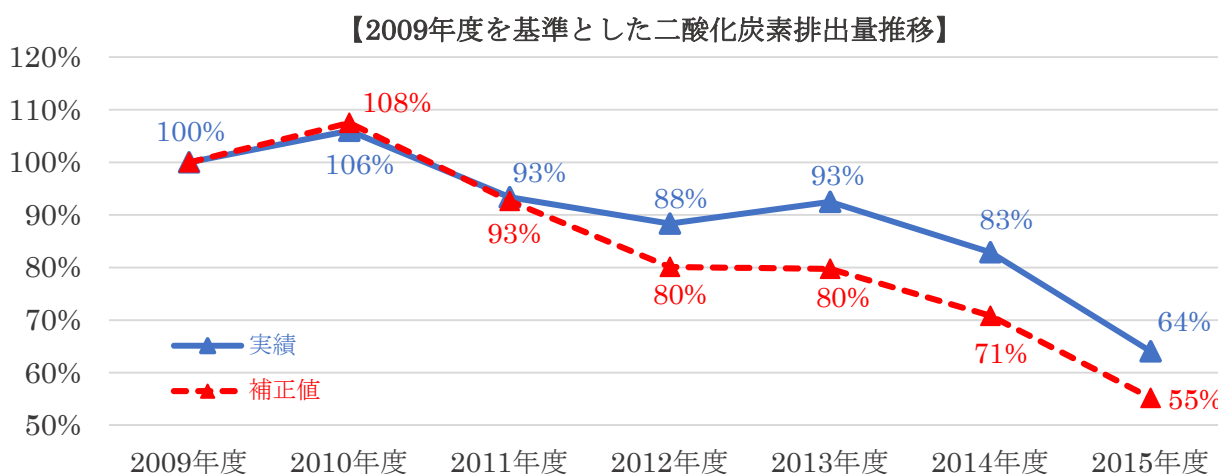
項目		基準年	実績	目標		
		2009年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素 排出量	目標【t-CO <sub>2</sub> /t】	0.04786	0.04551	0.04506	0.04461	0.04416
	実績【t-CO <sub>2</sub> /t】		0.05321	0.04627		
産業廃棄物 リサイクル率	目標【%】		96	96	96	96
	実績【%】	96	98	99		
水使用量	目標【m <sup>3</sup> /t】		0.80	0.79	0.78	0.78
	実績【m <sup>3</sup> /t】	0.84	0.67	0.54		
事務用品 グリーン調達率	目標【%】		80	86	86	86
	実績【%】	63	86	97		

### (2) 二酸化炭素排出量の推移【2009年度を基準年とした二酸化炭素排出量実績】

項目		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
二酸化炭素排出量 【t-CO <sub>2</sub> 】	実績 <sup>※1</sup>	4,898	5,247	4,573	4,326	4,529	4,060	3,138
	補正值 <sup>※2</sup>		5,266	4,539	3,925	3,907	3,470	2,706
生産重量当たりの 二酸化炭素排出量 【t-CO <sub>2</sub> /t】	目標		0.04738	0.04690	0.04644	0.04597	0.04551	0.04506
	実績 <sup>※1</sup>	0.04786	0.04927	0.05269	0.05406	0.05535	0.05321	0.04627
	補正值 <sup>※2</sup>		0.04944	0.05230	0.04904	0.04774	0.04548	0.03990
生産重量【t】	実績	102,343	106,514	86,795	80,027	81,833	76,296	67,823
		(100%)	(104%)	(85%)	(78%)	(80%)	(75%)	(64%)
























※1:電力の二酸化炭素排出係数は、省エネ法に従い九州電力の各年度の実排出係数を使用

※2:電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2008年度実排出係数(0.374 kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用



## 5.環境活動実績

(1) 2015年度環境活動取組み状況

項目	計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
地球環境問題への取組み	事業所における省エネ・省資源活動の推進				 夏季節電期間					 冬季節電期間				
	運輸面でのCO <sub>2</sub> 削減推進													
循環型社会形成への取組み	廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開			製造過程で発生した産業廃棄物の分別、受託した産業廃棄物（廃品コンクリートポール）の管理・適正な処理、回収BOXへの古紙回収、電子媒体の活用や裏面利用・両面コピーによるペーパーレス化 グループ会社を活用した蛍光灯及び乾電池リサイクル										
	グリーン調達の推進			事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入、購入実績の確実な把握										
地球環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み			化学物質排出把握管理促進法に基づいた化学物質の適切な管理と使用量の的確な把握										
社会との協調	環境情報の公開				 取扱量1トンの超の物質を届出									
	地域に密着した環境活動の推進				 環境活動レポート作成									
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立的運用													
	環境教育の実施及び環境情報の共有化				内部監査の実施（豊前工場、熊本工場、本社）						内部監査の実施（豊前工場、熊本工場、本社）			
											DVD研修（豊前工場、熊本工場） ビデオ研修（本社）			

## (2) 2015年度環境活動目標と実績

### ①環境活動目標と実績

項目	目標	実績	達成度	評価
<b>【製造業】</b>				
オフィス電力使用量削減	7.92kWh/m <sup>2</sup> 以下	7.59kWh/m <sup>2</sup>	104.1%	○
工場等の電力使用量削減	30.6kWh/t 以下	29.0kWh/t	105.3%	○
低公害車の導入	71.0%以上	81.8%	115.2%	○
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	16.2km/ℓ	119.7%	○
A 重油使用量削減	11.7ℓ/t 以下	9.4ℓ/t	119.3%	○
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	98.7%	102.8%	○
古紙リサイクル率 100%	100.0%	100.0%	100.0%	○
用紙使用量削減	975 枚/以下	697 枚	128.5%	○
オフィス水使用量削減	0.54 m <sup>3</sup> /人以下	0.37 m <sup>3</sup> /人	131.6%	○
工場等の水使用量削減	0.79 m <sup>3</sup> /t 以下	0.54 m <sup>3</sup> /t	131.2%	○
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	97.3%	113.2%	○
規制フロン回収率 100%	100.0%	実績なし	—	○
<b>【建設業】</b>				
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	100.0%	104.2%	○
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	100.0%	116.3%	○
<b>【産業廃棄物処理業】</b>				
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	99.8%	104.0%	○

※m<sup>2</sup>は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

### ②製造業と密接に関係する原単位の前年度比

項目	2014年度	2015年度	前年度比
電力使用量	31.2kWh/t	29.0kWh/t	▲7.1%
水	0.67 m <sup>3</sup> /t	0.54 m <sup>3</sup> /t	▲18.7%
A 重油	11.2ℓ/t	9.4ℓ/t	▲15.5%

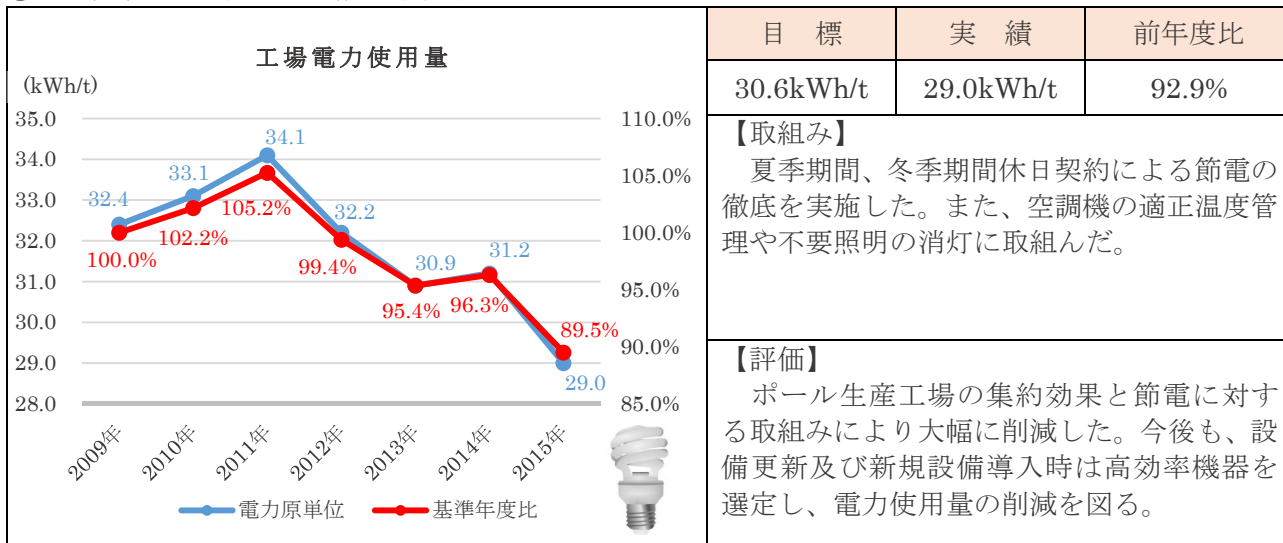
### ③実績評価

2015年度は、ポール生産工場集約により生産体制が変更となったことから、両工場の目標値（電力、水、A重油）を実態に合わせて見直した。15項目の環境目標を設定し環境活動に取り組んだ結果、全ての項目において目標達成となった。工場集約により、エネルギー利用効率が向上し製造業に密接に関係する原単位が大幅に減少した。

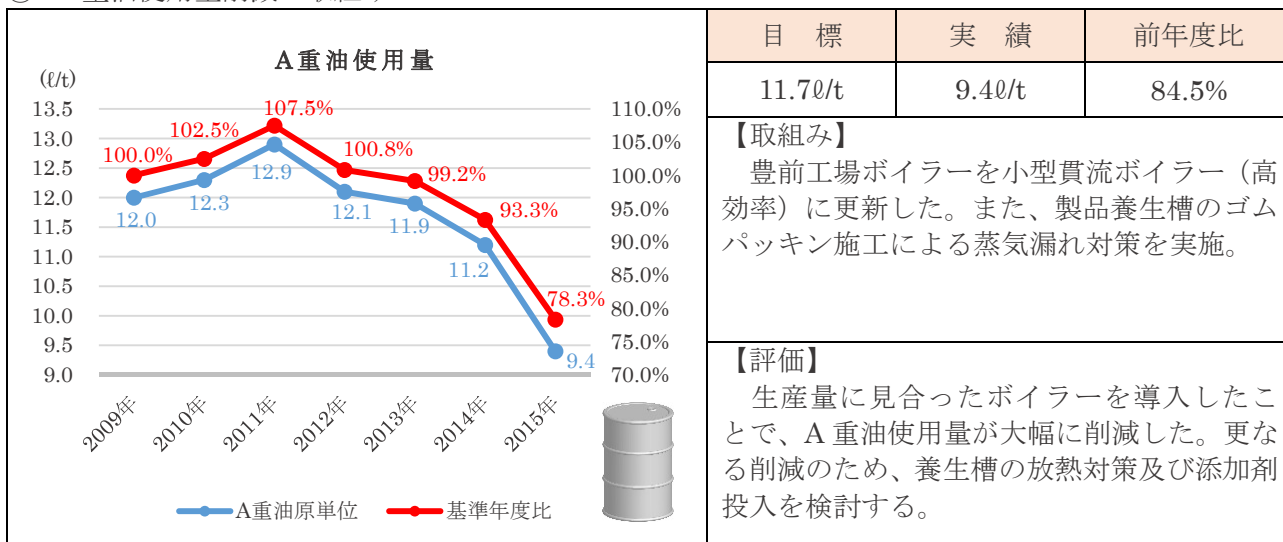


### (3) 主な個別項目の取組み状況

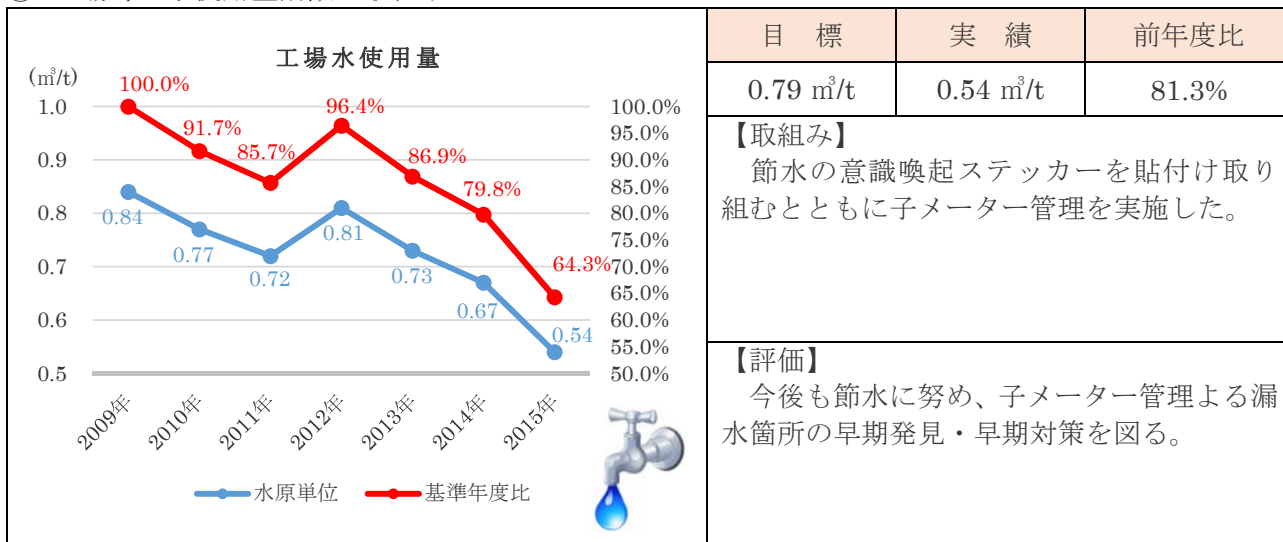
#### ① 工場等の電力使用量削減の取組み



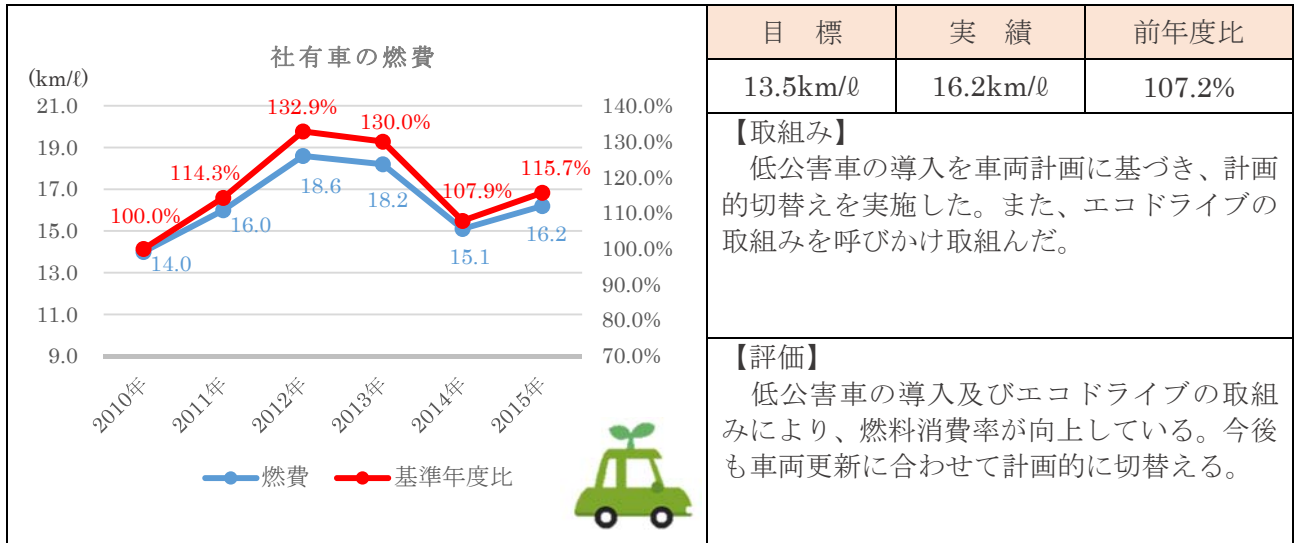
#### ② A重油使用量削減の取組み



#### ③ 工場等の水使用量削減の取組み



④ ガソリン消費率向上の取組み

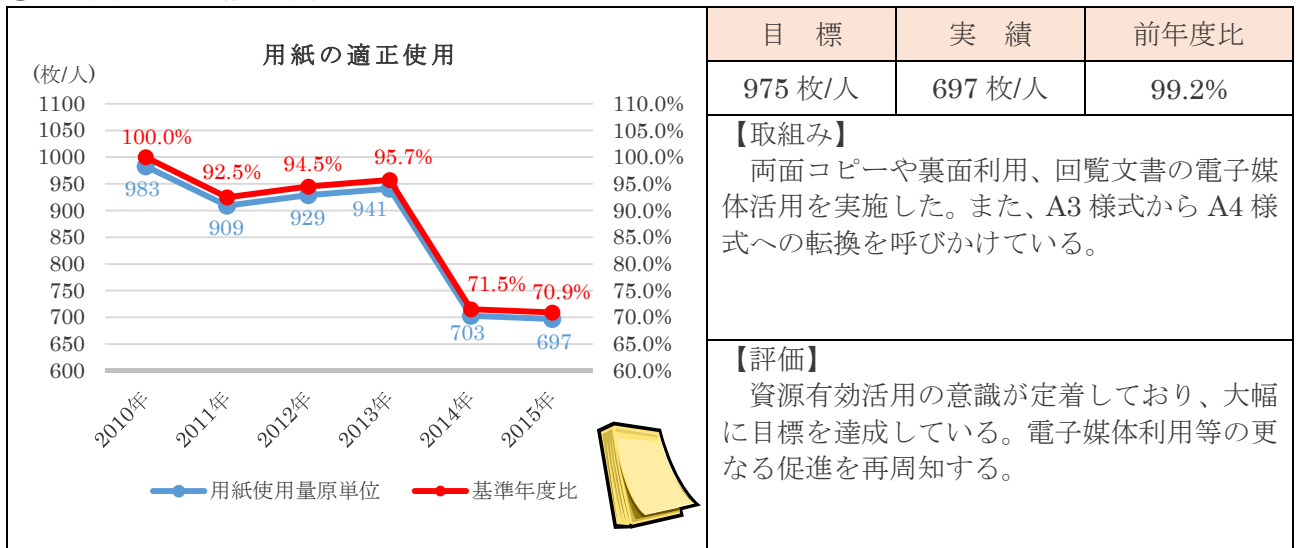


目 標	実 績	前年度比
13.5km/l	16.2km/l	107.2%

【取組み】  
低公害車の導入を車両計画に基づき、計画的切替えを実施した。また、エコドライブの取組みを呼びかけ取組んだ。

【評価】  
低公害車の導入及びエコドライブの取組みにより、燃料消費率が向上している。今後も車両更新に合わせて計画的に切替える。

⑤ 用紙使用量削減の取組み

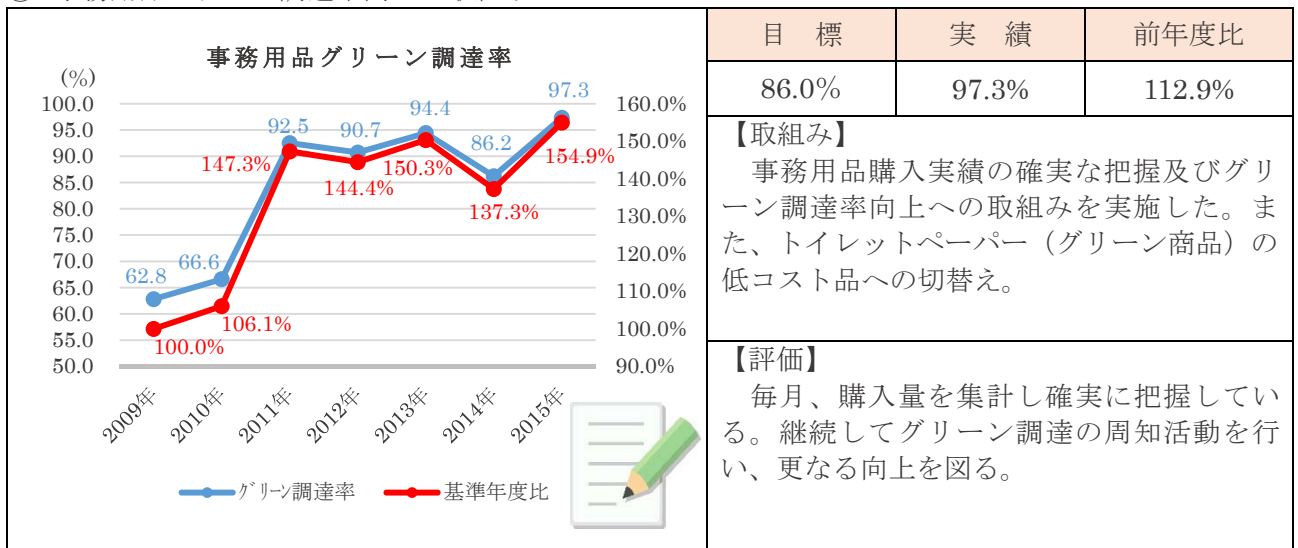


目 標	実 績	前年度比
975 枚/人	697 枚/人	99.2%

【取組み】  
両面コピーや裏面利用、回覧文書の電子媒体活用を実施した。また、A3 様式から A4 様式への転換を呼びかけている。

【評価】  
資源有効活用の意識が定着しており、大幅に目標を達成している。電子媒体利用等の更なる促進を再周知する。

⑥ 事務用品グリーン調達率向上の取組み

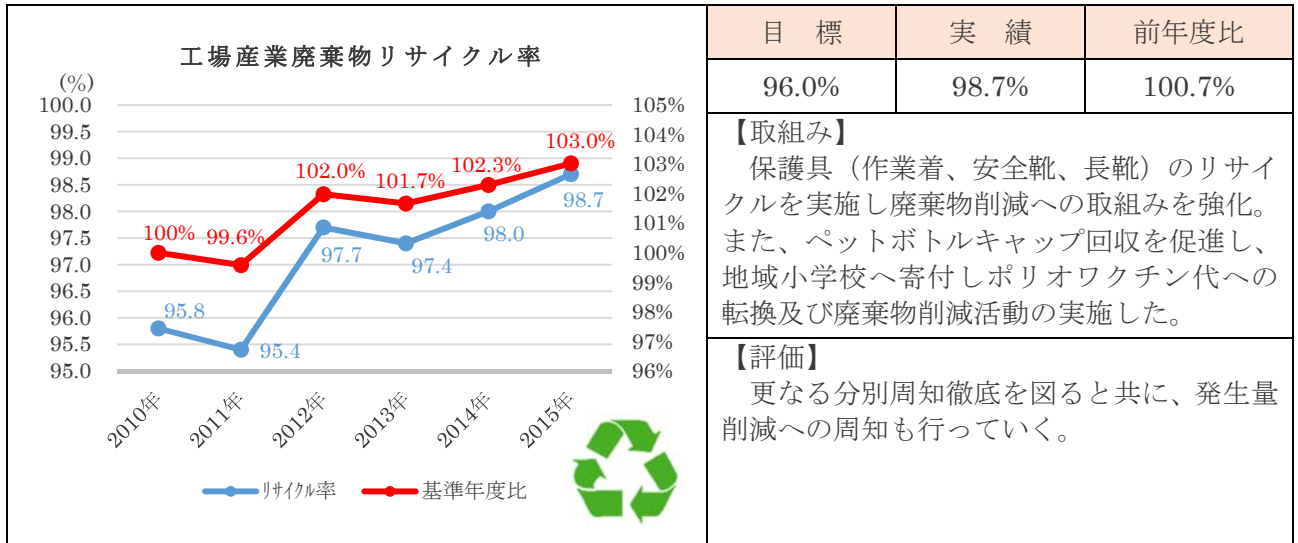


目 標	実 績	前年度比
86.0%	97.3%	112.9%

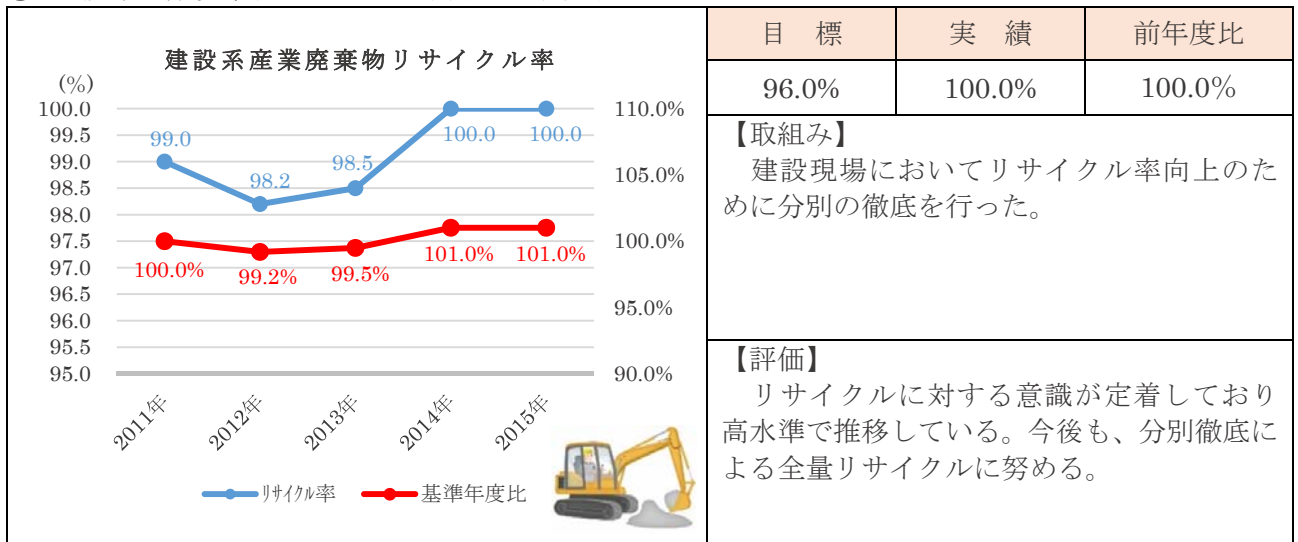
【取組み】  
事務用品購入実績の確実な把握及びグリーン調達率向上への取組みを実施した。また、トイレトーパー（グリーン商品）の低コスト品への切替え。

【評価】  
毎月、購入量を集計し確実に把握している。継続してグリーン調達の周知活動を行い、更なる向上を図る。

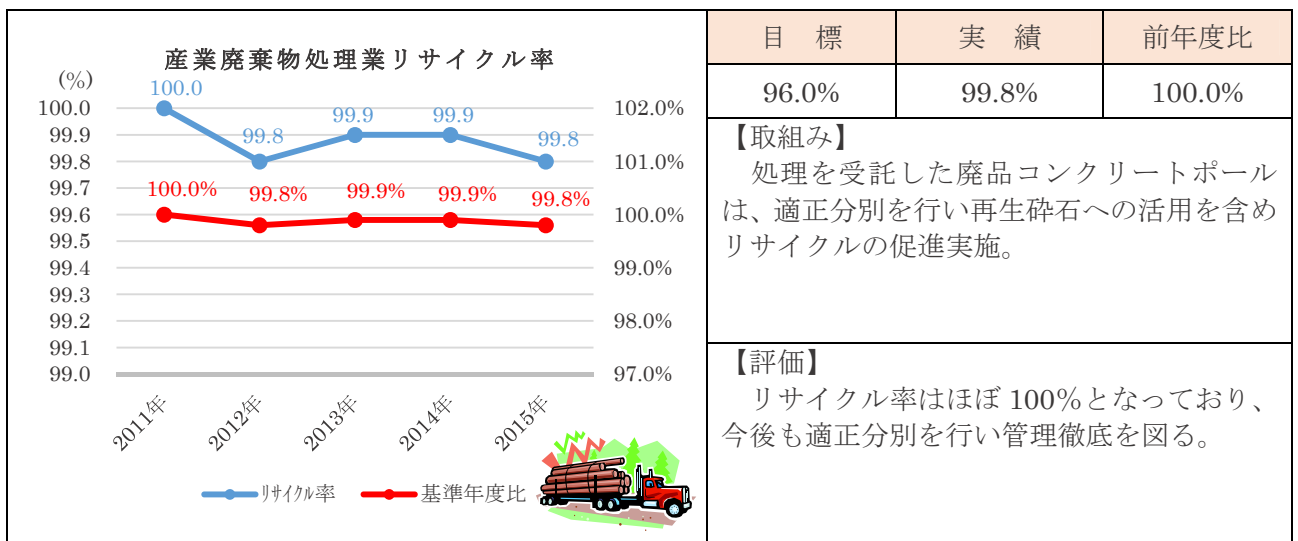
⑦ 工場産業廃棄物リサイクル率向上の取組み



⑧ 建設系産業廃棄物リサイクル率向上の取組み



⑨ 受託した産業廃棄物リサイクル率向上の取組み



**(4) 地域に密着した環境活動の推進**

地域貢献の一環として、各事業所の状況に応じた地域清掃活動を実施

事業所：本社	
活動内容：違反広告物撤去及び清掃活動（2回/年） 事務所周辺の清掃活動（毎週）	
作業前の様子	中西社長も参加
	

事業所：熊本工場	
活動内容：工場周辺の草刈り及び清掃（9回/年） 地域清掃ボランティア（2回/年）	
工場前の道路清掃	回収したゴミ
	

事業所：豊前工場	
活動内容：工場周辺の草刈り及び清掃（1回/年）	
工場の周辺清掃	回収したゴミ
	

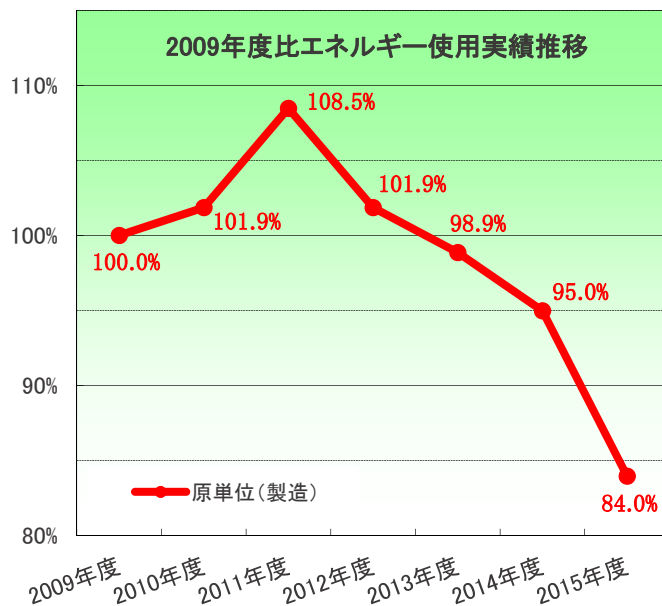
### (5) 豊前工場の小型貫流ボイラー導入について

豊前工場のボイラーは、蒸発量 10t/h、5t/h の炉筒煙管ボイラーをそれぞれ使用していました。10t ボイラーは主にオートクレーブ養生、5t ボイラーはポール、パイル、プレハブ製品の養生に使用していましたが、2014 年度のポール生産の熊本工場集約後、プレハブ製品のみを炉筒煙管ボイラーで養生すると能力過剰となるため、高効率な小型貫流ボイラーの導入を検討しました。

小型貫流ボイラー導入の検討段階において、能力設定を現状の蒸気使用量の測定結果と豊前工場の今後の生産量（想定）から算定すると現状の最大蒸気使用量と比較して、オーバースペックとなりました。そのため、現状の生産量で十分な能力を有する貫流ボイラー 750 kg/h×2 台とし、生産量の増加など必要に応じて 1 台増設で対応することとしました。

設置工事は、2014 年 6 月より不要設備の撤去から着手し、蒸気配管の改造、小型貫流ボイラー本体と水処理装置及び燃料タンクの設置を行い、8 月 6 日より本生産での使用を開始しました。



その結果、全エネルギー使用量の約 6 割を占める A 重油の使用量が大幅に減少し、製造業におけるエネルギー原単位が前年度比 88.4%、2009 年度比 84.0%と大きく改善しました。



(6) 事業別環境負荷実績

[ ] 内は 2014 年度実績

	製造業		建設業		産業廃棄物処理業	
資源投入量	エネルギー使用量					
	電力	193 万 kWh	[238 万 kWh]	ガソリン	5 kl	[4 kl]
	A重油	640 kl	[853 kl]	資材使用量		
	軽油	10 kl	[18 kl]	セメント	4,236 トン	[2,809 トン]
	その他	3 kl	[5 kl]	生コンクリート	0 トン	[251 トン]
	水使用量	36 千m <sup>3</sup>	[50 千m <sup>3</sup> ]	鋼材	17.6 トン	[6 トン]
	コピー用紙使用量	115 万枚	[120 万枚]	防錆塗料	0 トン	[1 トン]
	化学物質取扱量			その他	0.2 トン	[1 トン]
	メチルナフタレン	7.7 トン	[10 トン]			
	キシレン	0.2 トン	[1 トン]			

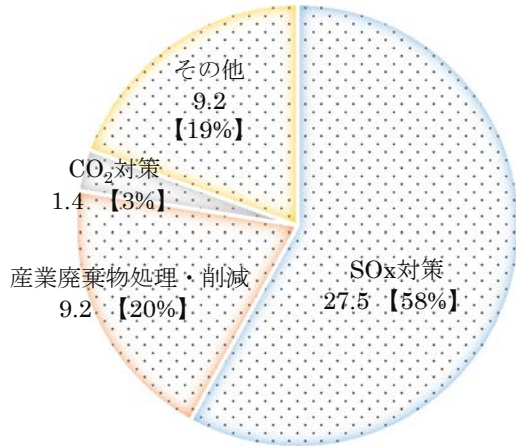
	製造業		建設業		産業廃棄物処理業			
事業活動	生産量		工事件数		受託した産業廃棄物の処理量			
	 コンクリートポール	64 千本	[72 千本]	 鉄塔基礎工事	187 件	[906 件]		
	 地中電線管路材	4 千本	[4 千本]	電力管路工事	76 件	[89 件]		
	産業廃棄物リサイクル率	99%	[98.0%]	建築・土木構造物 基礎工事	58 件	[63 件]		
	古紙リサイクル率	100%	[100%]	その他工事	188 件	[189 件]		
			産業廃棄物リサイクル率	100%	[100%]	再資源化量		
						受入量	14 千トン	[16 千トン]
						破砕量	14 千トン	[16 千トン]
						路盤材、原材料	14 千トン	[15 千トン]
						リサイクル業者に再委託	0 千トン	[1 千トン]
						形鋼材	1 千トン	[1 千トン]
						産業廃棄物リサイクル率	99.8%	[99.9%]



	製造業		建設業		産業廃棄物処理業			
環境負荷量	二酸化炭素排出量	2,924 トン-CO <sub>2</sub>	[3,810 トン-CO <sub>2</sub> ]	二酸化炭素排出量	11 トン-CO <sub>2</sub>	[9 トン-CO <sub>2</sub> ]		
	産業廃棄物処分量	65 トン	[88 トン]	産業廃棄物処分量	0 トン	[0 トン]		
	化学物質排出量	0.2 トン	[1 トン]					
						二酸化炭素排出量	241 トン-CO <sub>2</sub>	[251 トン-CO <sub>2</sub> ]
						最終処分量(委託)	21 トン	[19 トン]

(7) 環境活動コスト

設備投資[百万円]

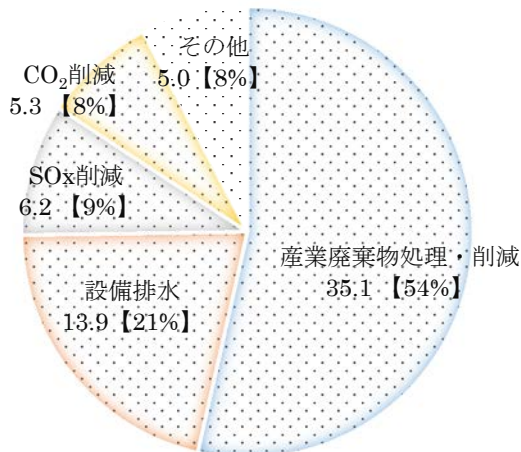


コスト合計 [47.3百万円]

【設備投資の主な内容】

- ・SO<sub>x</sub>対策  
小型貫流ボイラー設置など
- ・産業廃棄物処理・削減  
スラッジリサイクルに伴う設備設置など
- ・CO<sub>2</sub>対策  
建屋屋根明り取り改修工事など

活動費用[百万円]



コスト合計 [65.5百万円]

【活動費用の主な内容】

- ・産業廃棄物処理・削減  
スラッジ処理委託費用など
- ・設備排水  
工業用水処理に伴う消耗品費用など
- ・SO<sub>x</sub>対策  
ボイラー設備の維持管理費など
- ・CO<sub>2</sub>削減  
空調設備の維持管理費用など

コスト削減効果

項目	前年度比	基準年度比
電力使用量	4.7 百万円	14.3 百万円
A 重油使用量	13.3 百万円	35.5 百万円
水使用量	4.3 百万円	14.5 百万円

ポール生産工場の集約で生産効率が向上したことにより、電力・A重油・水の使用量で前年度比 22.3 百万円のコスト削減となった。特に、過剰設備であった豊前工場のボイラーを小型貫流ボイラーに更新したことでA重油使用量が大幅に減少した。

また、全社大における着実な環境活動により、基準年度比▲64.3 百万円と大幅なコスト削減効果が得られている。

## 6. 環境関連法規の遵守状況

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反はありません。また、関係機関からの指定、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

主な法規制の名称		主な内容
環境一般	工場立地法	・ 特定工場 ・ 生産施設 ・ 緑地
	公害防止組織法	・ 公害防止統括者及び公害防止管理者の選任
地球環境	地球温暖化対策推進法	・ 事業活動に伴う排出抑制 ・ 排出量の報告
	省エネ法	・ 特定事業者の指定 ・ エネルギー使用状況の届出 ・ エネルギー管理統括者の選任 ・ 中長期計画の作成
	フロン回収破壊法	・ 事業者の責務 ・ 大気中への放出禁止
	オフロード法	・ 使用の制限
廃棄物・リサイクル	廃棄物処理法	・ 事業者の責務 ・ 保管基準の遵守 ・ 許可業者への委託 ・ 委託基準の遵守 ・ マニフェスト管理
	PCB 特措法	・ 保管・処分 ・ 県知事への届出
	建設リサイクル法	・ 再資源化等の遵守 ・ 実施状況の記録 ・ 保存 ・ 報告
	自動車リサイクル法	・ 再資源化預託金等の預託義務
	家電リサイクル法	・ 収集・再商品化に対する費用負担
	小型家電リサイクル法	・ 分別排出、適切な引き渡し
大気・騒音・振動	大気汚染防止法	・ ばい煙発生施設等の届出 ・ 公害防止管理者等の届出 ・ 排出規制基準の遵守 ・ 測定 ・ 記録
	騒音規制法	・ 特定施設の届出 ・ 規制基準の遵守
	振動規制法	・ 特定施設の届出 ・ 規制基準の遵守
水質・土壌	水質汚濁防止法	・ 特定施設等の届出 ・ 排水規制基準の遵守 ・ 総量規制
	浄化槽法	・ 浄化槽設備の届出 ・ 未処理水の放流禁止 ・ 水質基準 ・ 水質検査 ・ 保守点検
化学物質	PRTR 法	・ 化学物質管理指針に基づく管理 ・ 排出量、移動量の届出
	毒物・劇薬取締役法	・ 毒物又は劇物の取扱及び表示



## 7. 産業廃棄物処理業に関する情報

### (1) 産業廃棄物処理施設

項目	豊前工場		熊本工場
許可番号	第 457 号	第中-226 号	第埋-014 号
許可年月日	2010 年 1 月 22 日	2012 年 5 月 10 日	1994 年 9 月 9 日
設置場所	豊前工場敷地内	熊本工場敷地内	熊本工場敷地内
事業施設の種類	がれき類の破砕施設	がれき類の破砕施設	産業廃棄物埋立処分(管理型)
処理能力	97.6 トン/日(8 時間)	160.0 トン/日(8 時間)	埋立地：12,152 m <sup>2</sup> 埋立容量：60,557 m <sup>3</sup>
産業廃棄物の種類	がれき類	がれき類	汚泥

※2001年度より埋立処分は未実施

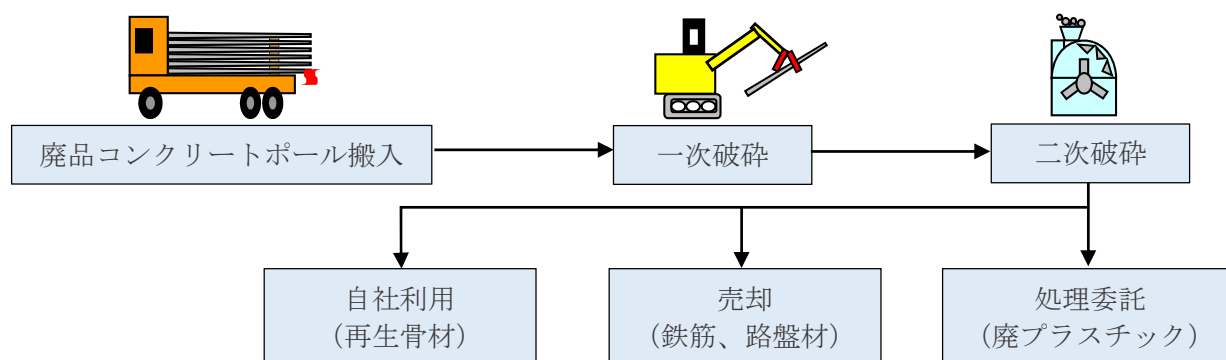
### (2) 広域認定制度

項目	内容
許可番号	第 199 号
許可年月日	2010 年 12 月 8 日
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国

### (3) 産業廃棄物処分業

項目	豊前工場	熊本工場
許可番号	04020008997	04325008997
許可年月日	2012 年 2 月 21 日	2013 年 9 月 26 日
有効期限	2017 年 2 月 20 日	2018 年 9 月 25 日
事業の範囲	中間処理 (破砕)	中間処理 (破砕)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	油圧スクリーンクラッシャー方式	ジョークラッシャー方式

### (4) 処理工程図



## 8. 次年度の環境目標

### (1) 2016年度目標

項目	目標	目標設定の考え方
<b>【製造業】</b>		
オフィス電力使用量削減	7.58kWh/m <sup>2</sup> 以下	九電グループ目標で取組み
工場等の電力使用量削減	30.3kWh/t 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
低公害車の導入	71.0%以上	目標据置きで取組み
ガソリン消費率向上	13.5km/l以上	目標据置きで取組み
A 重油使用量削減	11.6l/t 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組み
古紙リサイクル率 100%	100.0%	目標据置きで取組み
用紙使用量削減	975 枚/以下	目標据置きで取組み
オフィス水使用量削減	0.54 m <sup>3</sup> /人以下	目標据置きで取組み
工場等の水使用量削減	0.78 m <sup>3</sup> /t 以下	中長期目標に従い前年目標▲1%
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	目標据置きで取組み
規制フロン回収率 100%	100.0%	目標据置きで取組み
<b>【建設業】</b>		
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組み
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	目標据置きで取組み
<b>【産業廃棄物処理業】</b>		
受託した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組み

※m<sup>2</sup>は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

### (2) 2016年度新規取組み

環境活動が定着し、各事業所で計画的かつ適切な取組みが行われており、良好な活動結果となっている事から現行取組みを継続する。2016年4月より大幅な組織改正を伴うため、以下の項目を新規に織り込んだ。

- 大幅な組織変更を伴うため、新推進体制を構築し適切な EMS の運用

## 9. 代表者による全体評価と見直し

### (1) 環境目標の達成状況

2015年度は、ポール生産工場集約に伴い両工場の生産体制が大幅に変更となったことから、電力、水、A重油の目標値を実態に合わせて見直しました。15項目全てにおいて目標を達成することができました。

### (2) 環境活動計画の実施及び運用結果

省エネ法では、エネルギーを使用する事業者に対してエネルギー使用量の原単位を年平均1%以上削減するという努力目標が課せられております。当社も特定事業者に指定されたことを契機に、エネルギー管理体制を構築し、設備毎の使用実態の把握およびエネルギー管理規程や合理化計画を策定し取組んできました。

その様な中、ポール生産量減少に伴い生産効率の合理化を図るため2014年にポール生産工場を集約しました。両工場において生産体制に見合った設備を導入し環境活動に取組んだ結果、エネルギー使用量の原単位が前年度比▲11.6%と大幅に減少しました。

環境活動全体に目を向けると、環境情報の公開や教育訓練、内部監査の実施など活動の定着が図られています。また、地域に密着した環境活動の推進として、各事業所に応じた美化活動を全従業員で実施しており、環境意識の向上が感じられます。

### (3) 今後の取組み

エコアクション21、九電グループ環境アクションプラン及び省エネ法への対応を考慮した上で、環境方針やガイドラインに沿ってPDCAサイクルを基本に項目毎の課題にしっかりと取組み、低炭素社会実現に積極的に寄与していきます。





*Kyushu Kouatsu Concrete  
Industries Co., LTD.*

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

---

九州高压コンクリート工業株式会社

環境管理責任者 取締役常務執行役員 業務本部長 富永 耕征

環境管理担当者 業務本部総務グループ 中村 敏彰

TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 <http://www.kyuatsu.co.jp/>